



# 琴丘高校 図書館だより

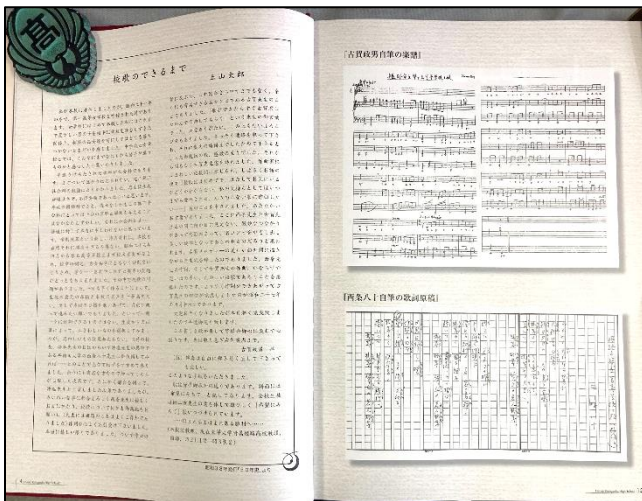
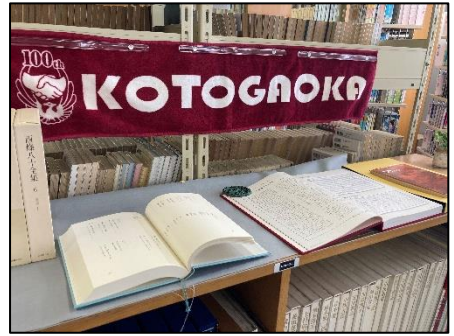
第7号 令和5（2023）年 11月発行



創立110周年を迎えました！ 歴史を胸に 羽ばたけ未来へ



図書館ベランダから掲げられた横断幕。館内には、創立50周年・100周年の記念誌などを展示しています。



改めて、琴丘の校歌を100周年記念誌から読み解いてみました。西條八十（「かあさん おかたをたたきましょ〜♪」の『肩たたき』などの作詞者）と古賀政男（「丘をこえて行こうよ〜♪」の『丘を越えて』の作曲者）による、時の名コンビによって作られた、実はすごい校歌です！

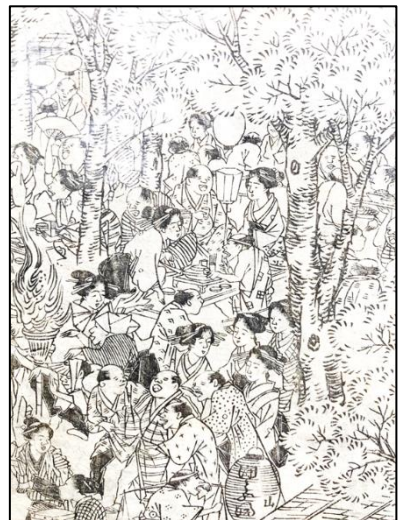
古賀氏直筆の楽譜には、「希望にみちて」と歌い方が書いてあります。琴丘高生である誇りを胸に、未来への希望を持って、持ち前の力を発揮しながら学校生活を送ることができますように、そんな願いが歌詞にも込められています。

一番の歌詞に、「学びつつ<sup>ほほえ</sup>微笑める未来へ」とあります。あくまで個人の見解ですが、琴丘の生徒はよく笑っている印象を受けます。

免疫や伝染病研究の第一人者である藤田紘一郎は、その著書『笑う免疫学』（ちくまプリマー新書）で、「『笑う』という行動は、神経・内分泌系から免疫系へと続く、心と体のプログラムを活性化して、免疫の上昇を導きます」と述べています。感染症との闘いが続く中、笑って免疫を上げ、健やかな学校生活を送れるといいですね。

ちなみに、本校図書館の所蔵する江戸時代の本の中では、笑っている人々が処々に描かれています。江戸時代の人々はたくさん笑って、活気あふれる文化を創り上げていたのでしょうか。

笑いの向こうには、明るい未来が待っている！



『花洛名勝図会』より京都祇園夜桜





## めいしよずえ ○「名所図会に親しむ」校内イベント開催しました！ 毎年恒例！今年度は『東海道名所図会』

すっかりおなじみになってきた本校所蔵の和装本（江戸から明治に発行）に親しむイベントです。今年度は、江戸時代の旅行ガイドブックシリーズ『東海道名所図会』の世界を楽しみました。

感染症拡大の影響で、実施日を11月17日（金）に変更。9名の参加者（留学生1名も含む）があり、図書部員による愉快的解説と、挿絵の着色を楽しみました。アクリル絵の具を水で溶き、着物、畳、屋根など江戸時代の色ってどんなのだろうと想像しながらオリジナルの色を塗っていき、カラフルで華やかな挿絵を描き上げていました。



どの作品も活気あふれる江戸の様子が表れています。秀作1点は『読書三餘』の表紙を飾ります！

## ○同時開催！本校所蔵和装本虫干し展示 大事な本を虫やカビなどから守るため、お天気の良い乾燥した日に、日陰に並べて風に当てます。ついでに展示も兼ねて、手に取って鑑賞することもできるお得なイベント！

### 『東海道名所図会』（左半分）

全6巻。京都からお江戸日本橋までの東海道の名所旧跡を訪ね歩くための案内書です。寛政9年（1797年）に刊行されました。作者は、江戸の名所図会と言えばこの人！秋里籬島（あきさとりと）です。籬島は自ら調査して、実際に名所に足を運び、その名所に関する古典などを引用して書き記すなど、相当な情熱と知識があった人物であることが推測できます。大井川の渡し、箱根の温泉、小田原いろいろ、大森海岸の海苔など、現代でも有名な名所・物産が描かれています。

### 『花洛名勝図会』（右半分）

全8冊。籬島が『都名所図会』を刊行してから80年経ち、増補改訂版として編まれた「籬島著ではない京都の名勝図会」です。刊行は幕末、文久2年（1862年）。京都の名所とそこで楽しむ人々の様子が生き生きと描かれています。例えば、清水寺の音羽の滝。ご利益があるという3本の滝から1本を選んで長いひしゃくに汲んで一口…を行ったことがある人も多いのでは？この挿絵ではなんと人々が音羽の滝を頭から全身でかぶる滝行をしています！今したら怒られる？！



↑ 牧野富太郎と『本草綱目』コラボ展も便乗開催

〈参考文献〉●『名所図会を手にして東海道』（福田アジオ・御茶の水書房） ●『暮らしと遊びの江戸ペディア』（飯田泰子・芙蓉書房出版） ●『図説江戸の旅名所図会の世界』（深光富士男・河出書房新社） ●『プラタモリ13』（NHK・角川書店）